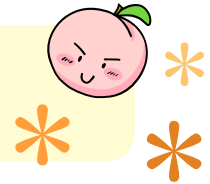


十五夜のお話（中）



みなさん、こんにちは。今日10月4日は「十五夜」です。十五夜は、一年中で月がもっとも美しく見える夜のことです。

昔の暦、旧暦では、7月、8月、9月が秋でした。3か月ある秋の真ん中の8月15日が「十五夜」といわれ、秋の真ん中の日のことを、中学校の中と秋と書いて中^{ちゅう}秋^{しゅう}というので、この日の月は、「中秋の名月」とよばれます。満月のこともあります、1日から2日ずれることが多いです。

また、十五夜は月の満ち欠けによって決まるので、毎年同じ日ではなく、9月の中旬から10月の上旬の間になります。

平安時代には、貴族たちが月を見て楽しみ、江戸時代になると、月を見るだけでなく、食べ物の収穫に感謝する「収穫祭」の意味も加わりました。

収穫への感謝と豊作への願いを祈願するために、満月のような丸いだんごを供え、だんごを食べることで、健康と幸せを得ようと考えていました。だんごの形は地方によって異なり、丸いもののほかに、丸型で真ん中をくぼませたもの、名古屋あたりで見られるさといも型のもの、周りにあんこをつけたものなど、色々あります。そして、稲に似たすすきを飾ることで、米の豊作を願いました。

さあ今夜は、だんごを供えてすすきを飾り、平安時代の貴族になったつもりで、月を眺めましょう。